

翻訳家・岸本佐知子推薦!

web連載で話題沸騰の若手女性詩人 によるエッセイ、ついに書籍化。



「早熟」「天才」と騒がれた女子高生は、
今やどこにもいない。
残されたのは、臆病で夢見がちな冴えない女——。
「ないない」尽くしの私は、
現実に向き合うことができるのか?
18歳で中原中也賞を受賞した著者が、
JK詩人からの脱却を図った体当たりエッセイ集。

臆病な詩人、街へ出る。

著者:文月悠光
定価:(本体1,600円+税)
四六判/272ページ

●プロフィール

文月悠光(ふつき・ゆみ)

詩人。1991年北海道生まれ。16歳で現代詩手帖賞を受賞。高校3年の時に出した第1詩集「適切な世界の適切ならざる私」(思潮社)で、中原中也賞、丸山豊記念現代詩賞を最年少で受賞。2016年、初エッセイ集「洗礼ダイアリー」(ポプラ社)、第3詩集「わたしたちの猫」(ナナログ社)を刊行。NHK全国学校音楽コンクール課題曲の作詞、ラジオ番組での詩の朗読など広く活動中。

2/14(水)
配本

●CONTENTS

まえがき——憧れと怖れの街へ/JK詩人はもういない/失敗だらけの初詣/お祓いと地獄の新年会/八百屋で試される勇氣/ガラスの靴を探して/恋愛音痴の受難/鏡の向こうにストリートを一発/私は詩人じゃなかったら「娼婦」になっていたのか?/フィンランドで愛のムチ/TSUTAYAと私の「永遠」/私って必要ですか?——[ニッポンのジレンマ]出演のジレンマ/雨宮まみさんの遺したもの/秘密のギター教室/ストリップ劇場で見上げた裸の「お姉さん」/臆病な詩人がアイドルオーディションに出てみたら/テレビに映る残念な私が教えてくれること/恋人と別れたあの日から/臆病な詩人、本屋で働く。/あとがき——臆病と勇敢

web連載では
「私は詩人じゃなかったら
「娼婦」になっていたのか?」が
大きな反響を呼びました。

貴店名	タイトル	ご注文数
	<p>[新刊] 臆病な詩人、街へ出る。 定価:(本体1,600円+税) ISBN978-4-8456-3179-7</p>	<p>新刊指定締切 2/1(木)</p>